

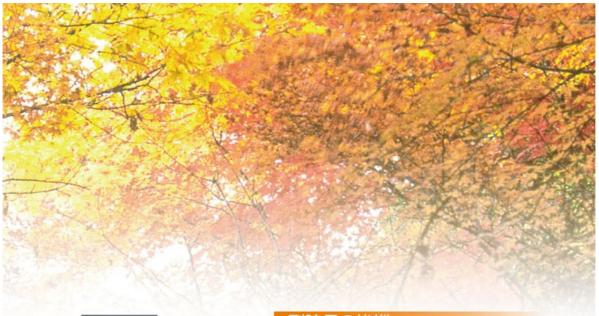


私たちは『安心・信頼・誠実・尊厳・思いやり』の心を大切にし、 患者さま本位の病院として地域医療に貢献できる医療機関を目指します。

基本方針

① 患者さまの権利、プライバシーを尊重します。
② 安心と満足のいく良質な医療の提供を目指します。
③地域とともに歩み、地域医療に貢献します。
④ 医療、介護、福祉の連携強化に努めます。
⑤病院とともに成長できる働きがいのある職場と 風土を育んでいきます。

(2)田辺中央病院広報誌「心」第2号





副院長 谷口 良樹

昭和54年 大阪市立大学医学部卒 昭和60年 医学博士

【専門分野】 腰痛の運動療法、上下肢の骨折

◎日本整形外科学会専門医

◎日本リハビリテーション学会臨床認定医 ◎日本医師会認定産業医

副院長の挨拶

整形外科を担当している副院長の谷口です。田辺中 央病院には1994年から勤務しています。

整形外科は運動器(骨、筋肉、靭帯)の外傷、障害を 扱う診療科目です。具体的には骨折・五十肩など各種 関節の不調・腰痛等が対象となります。上記疾患に対 し、必要に応じてリハビリテーションも併用します。

新理事長の方針で今後リハビリテーション部門を、 質・量とも充実させていく予定です。これまでご不便 をかけていた状況も改善していくことと思います。 手術に関しては外傷・骨折の手術を主に行っています。 当院で対応可能な手術に関しては思い上がりですが、 充分「商品価値」のある「出来ばえ」と自負していま す。私も含めた職員は、さらに「良い出来ばえの商

品」を生み出すために努力します。

また、当病院の規模・私の能力から対応できない患者 様には、責任を持って専門的高度医療機関に紹介させ て頂きます。

どのような仕事でも従業員全員が「知識(受身の学習)」「知恵(日常的な自己啓発の継続)」の両方を磨 くことが必要です。その結果、田辺中央病院は「地域 に対していい仕事をする伸びる病院」に成長します。 今後ともよろしくお願いします。

田辺中央病院広報誌「心」第2号 〈3〉

地域医療連携室を発足しました

高齢者の増加、疾患の慢性化に伴い、地域の医療機関、介護・福祉との連携が重要視されるようになり ①病状に応じて適切な対応を行う、②退院後の療養などをサポート、③地域医療機関との連携により当院 の役割を十分果たすことを目的に平成23年8月1日より地域医療連携室を発足することとなりました。 当院では医療ソーシャルワーカーが患者さんやご家族からお話を伺い、情報を共有し、より良い解 決方法を一緒に考えていくことができるようご相談をお伺いしております。



患者さまが安心して治療や療養に専念できるよう様々な 相談などに対し、社会福祉の立場からご相談をお伺いし サポートしていく職員のことです。

地域医療連携室の役割

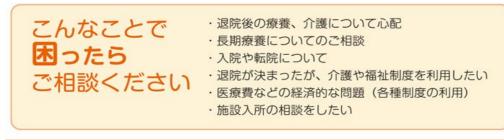
急性期の治療を終えた患者さまが適切な医療機関で引き続き治療を受けたり、在宅での医療が必要 になったり、介護や福祉の制度を利用することもあり、退院後の療養に関わる疑問や問題点、様々 な日常生活上の事柄、各種制度等について専門的な相談を受け付けています。また、相談の内容に よっては、手続きや申請の支援、必要に応じた適切な部門や機関への連絡等を行います。

地域医療連携室 室長就任のご挨拶

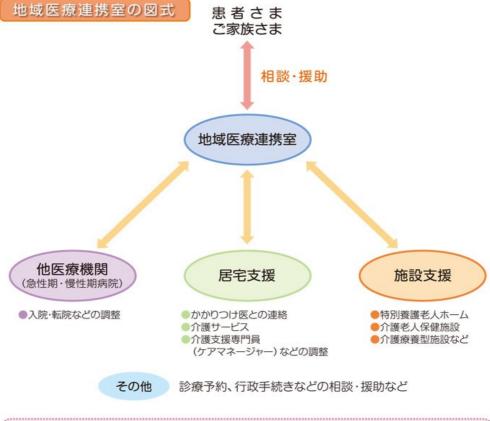


大上 信幸

平成23年8月1日より地域医療連携室に赴任した、大上です。 約10年間、医療・介護などの相談業務を経験してまいりました。当院 は、今まで地域の方々に根ざした医療を提供してまいりましたが、今回 の地域連携室発足を機会に、より地域の各医療機関やクリニック、施設、 専門家との連携・相談を深め、皆様に安心した医療を受けられるよう尽 力してまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。



(4)田辺中央病院広報誌「心」第2号





田辺中央病院広報誌「心」第2号 〈5〉

転倒予防について

ちょっとしたはずみに転んだことがきっかけで、介護が必要になってしまう人が多いのをご存 じですか? 「転倒・骨折」は寝たきり上位の原因とも言われており、その大部分は過半数は家 庭内、居間などの室内で起きています。

自分の体を知ったうえで、転倒予防することで寝たきり予防をしましょう。 先ずは、自分が転倒しやすいかどうかをチェックしてください。

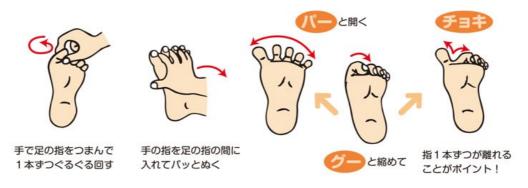
日常生活チェックリスト」あるもの)にチェックしてくた	ぎさい。
質問① 過去1年に転んだことがある	(はい・いいえ)	5点
質問 ②※背中が丸くなってきた	(はい・いいえ)	2点
質問③ 歩く速度が遅くなってきたと思う	(はい・いいえ)	2点
質問 ④※杖を使っている	(はい・いいえ)	2点
質問 ⑤※毎日5種類以上の薬を飲んでいる	(はい・いいえ)	2点
合計点7点以上は「要注意」です。		
質問②※=骨粗鬆症による円背(腰が曲がっている)。 質問④※=転倒不安がある。 質問⑤※=持病が多い。		
高齢者が転倒●下半身(足)の筋力		

やすい理由
 バランス感覚の低下
 脳卒中などの後遺症による麻痺、視力の低下
 薬の服用による眠気やめまい など

次に転倒しにくい体づくりのために、普段から体をうごかしましょう。 ここに簡単なトレーニングを紹介します。



(6)田辺中央病院広報誌「心」第2号



② 足や足指は身体を支える大切な役割をはたしています。 足指の体操はしっかりと身体を支える事に大変役立ちます。

転倒を防ぐためには、日ごろから適度な運動をして筋力の低下を防ぐことが最も大切です が、住環境を見直すことも重要です。高齢者の転倒予防策として最も適しているのは手す りの設置や段差の解消ですが、工事が必要となったり、費用もかかります。そこで、日ご ろ何気なくつかまっていたり、よく手をつく場所にイスを置いたり、家具の配置を変更し てみるのも一案です。玄関の上がりかまちの大きな段差には、間に少し低い足置きを置い たり、上がりかまちにすべり止めのマットを敷くなど工夫しましょう。

介護保険の住宅改修

すでに介護保険の要支援、要介護認定を受けている場合は、住宅改修の給付を受ければ、手 すりの設置や段差の解消などができる。

介護保険の住宅改修費は、要介護度に関係なく、一律20万円が限度で、原則は1回のみの利用。要介護度が3段階、または要支援から4段階以上上がったときには再び20万円を上限に利用が可能。引つ越ししたときにも再度利用できる。



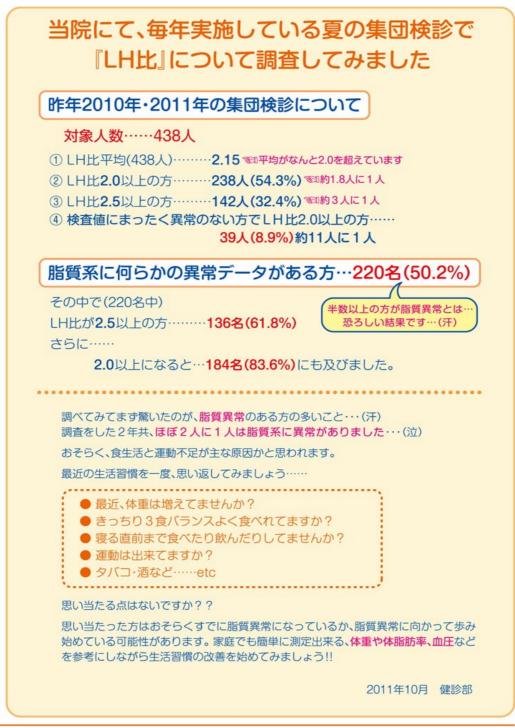
(1)手すりの取りつけ(2)段差の解消(3)すべり防止および移動の円滑化等のための床または床材の変更(4)引き戸等への扉の取り替え(5)洋式便器等への便器取り替え(6)その他住宅改修に付帯して必要となる工事

田辺中央病院では、今までのPT(理学療法士)3名に新しく OT(作業療法士)1名、ST(言語聴覚士)1名が加わりました。 機能訓練室の拡大、改修も順次行われる予定です。 新しく充実していくリハビリテーション科をご期待下さい。 (リハビリテーション科)

田辺中央病院広報誌「心」 第2号 〈7〉



(8)田辺中央病院広報誌「心」 第2号



田辺中央病院広報誌「心」第2号 〈9〉



⁽¹⁰⁾ 田辺中央病院広報誌「心」 第2号

しょお~だったのか「日本食」

さて。みなさまご存知のように、日本食は低脂肪で栄養バランスよくローカロリーな世界に誇るヘル シー食です。ユネスコの世界無形文化遺産登録を目指して「がんばれ農林水産省っ!」そんな日本食です が、実は欠点もありまして――それは「塩分が多い」ということ。世界でもトップクラスです。塩の取り すぎは高血圧やいろいろな病気の原因になることが数多くの調査で確かめられています。 日本高血圧学会のガイドラインで提唱されている減塩目標は「1日6g未満」です。

では問題です。日本人の1日の食塩摂取量はいったい何グラムでしょうか?――正解は「11g」 これは350ml(缶ジュースー本分)の海水に相当します。結構な量ですね。半分近くの6gにするには食事 の量を半分に減らして後は水でものんで…?

とはいえ塩分は夏の熱中症予防にも必要。体にとって大切なミネラルです。塩は敵ではなく味方なのです。 大切なのは相手の正体(塩分量)を知り、上手に付き合っていくことだと思います。

孫子の兵法にも「敵を知り己を知れば百戦して殆(あや)うからず」とあります。先ずは相手を知りましょう。



田辺中央病院広報誌「心」第2号 (11)

診療科目	内科 外科 肛門外科 整形外科 リハビリテーション科
受付時間	午前8:30~11:00 午後1:00~2:00
診療時間	午前9:00~12:00 午後1:00~5:00

■外来診察一覧表	診療科	曜日	月	火	水	木	金	±
 ※内科一診糖尿病専門外来 水曜午前10:00開始 ※整形外科 土曜受付午前10:30まで 	内科一診	午前	上畠	浅井	佐々木業	浅井	田中	交代制
	PYA4 = 52	午後	浅井	田中	上畠	田中		
	内科二診	午前			土井			
		午後			土井			
	外 科	午前	上田	伊東	上田	伊東	伊東	上田
		午後	伊東	手術日	上田	手術日	伊東	
	整形外科	午前	谷口	谷口	金本	飯田	谷口	交代制。
		午後	谷口	谷口	手術日		谷口	



(12) 田辺中央病院広報誌「心」 第2号

L